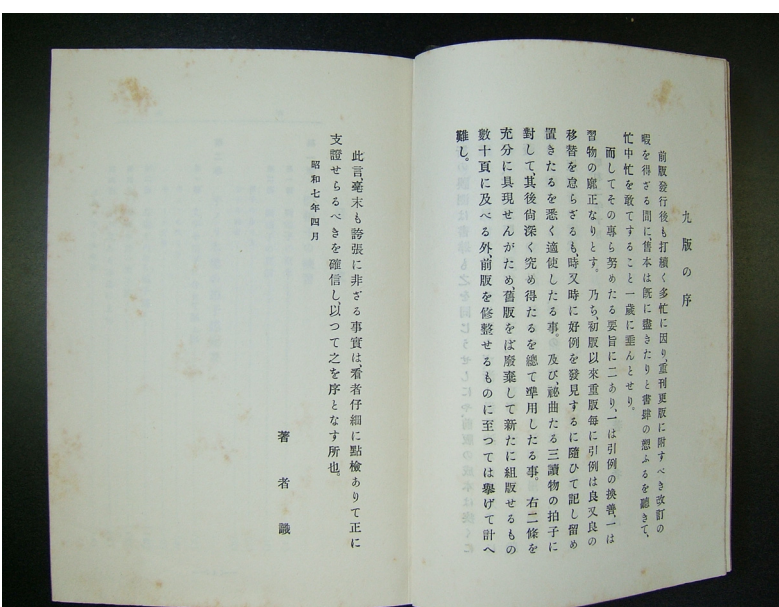
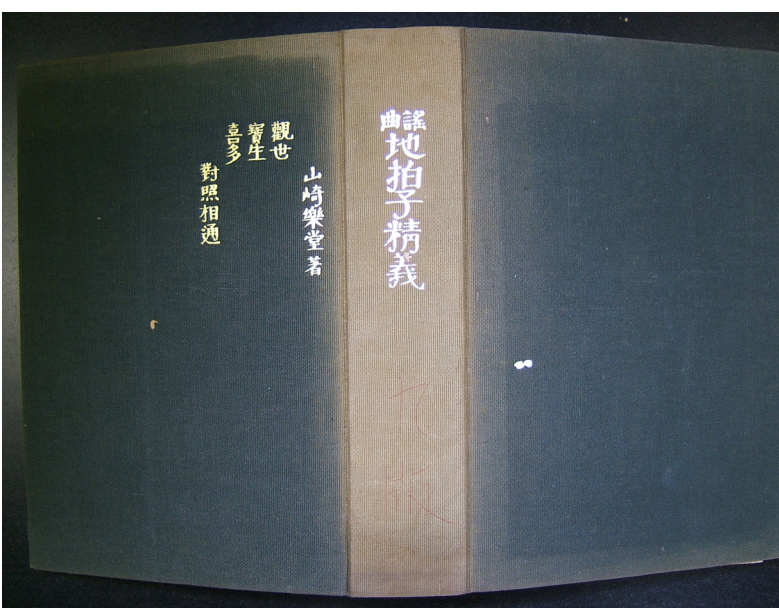


山崎樂堂 『独習用 謡曲 地拍子精義（全改・第九版）』

改訂を重ねた『地拍子精義』の最終的な姿を示す。九版序（写真下）によると、改訂の要旨の一つは「秘曲たる三読物の拍子に対して、其後尚深く究め得たるを総て準用した」ことである。第八版（72頁）と、勸進帳（観世）同土を比べてみても、当りのバリエーションの付加や整理（削除）、地の枠の大きさ（本地、片地等）の変更等が行われているのが確認できる。



標題 内題…独習用 謡曲 地拍子精義（全改・第九版）

改・第九版

標題紙…全改版『改訂増補第九版』観世・

宝生・喜多 対照相通 独習用

謡曲 地拍子精義

奥附…

その他…観世・宝生・喜多 対照相通

謡曲 地拍子精義（表紙から背

にかけて）

著者 奥附…山崎樂堂

その他の場所…工学士 山崎樂堂（標題

紙）、山崎樂堂（表紙）

出版 版次…第九版

出版地…東京

出版社…わんや書店

出版年…昭和7（1932）

その他の場所…九版の序 昭和7（1932）

形態 冊数…一冊 頁数…六〇五頁

寸法…22×15（cm）

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考 初版は大正四（一九一五）年。